

## 会 議 記 錄

|      |  |
|------|--|
| 会議名称 | 第2回杉並区社会教育委員の会議  |
| 日 時  | 令和7年9月1日（月）午後3時06分～午後4時59分   |
| 場 所  | 中棟4階 第2委員会室  |
| 出席者  | <p>委員<br/>奥山、加藤、齊藤、宮田、天野、荻上、佐藤、笹井<br/>区側<br/>生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、<br/>学校支援課長、社会教育センター所長、管理係長、<br/>社会教育推進担当係長（社会教育主事）、<br/>社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）、<br/>社会教育センター社会教育主事</p>  |
| 配付資料 | <p>&lt;配布資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第1回社会教育委員の会議記録</li> <li>2 『社会教育活動が地域に広がるために』第18期社会教育委員の会議まとめ</li> <li>3 今期の会議予定について</li> <li>4 青少年問題協議会委員の推薦について</li> </ol> <p>&lt;参考資料&gt;委員のみ配布</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和7年度「杉並区の教育」</li> <li>2 令和7年度「小学生名寄自然体験交流事業」参加児童募集チラシ</li> <li>3 社会教育センター「地域活動のファシリテーターになろう！」チラシ</li> <li>4 社会教育センター「すぎなみ大人塾」総合コース チラシ</li> <li>5 青少年委員だより第84号</li> <li>6 大人と子ども、地域と学区をつなげる、地域発&lt;教育情報誌&gt;なみすく 2025年夏号</li> </ol> |
| 会議次第 | <p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第18期社会教育委員の会議のまとめについて</li> <li>2 今期の会議予定について</li> <li>3 杉並区青少年問題協議会委員の推薦について</li> </ol> <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検討課題の設定に向けて<br/>今回・次回のテーマ（案）             <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 目的的ではない学びの大切さ</li> <li>(イ) 子ども・若者に必要な学び</li> <li>(ウ) 学校施設が地域の社会教育の中心的存在として機能するには</li> <li>(エ) 人と関わることで生じる生きづらさへのケア・回復</li> <li>(オ) 他者との関わりから自覚する自分が求める学び</li> </ul> </li> </ol>                       |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>2 今期の進め方について<br/> <b>III その他</b></p> |
| (意見要旨)   |   |
| <p>○議長 はじめに、生涯学習担当部長からご挨拶をお願いします。</p> <p>○生涯学習担当部長 今期の検討課題についてご議論いただきますが、印象として名称に堅さを感じるので、社会教育委員の会議はそのままに、愛称を付けてもいいのではないかと思います。そのことも皆様で話していただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>○議長 資料確認をお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事）（資料の確認）</p> <p>○議長 報告事項1番目ですが、「第18期社会教育委員の会議のまとめについて」事務局からお願ひいたします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事）（まとめの概要について説明）</p> <p>○A委員 「社会教育活動に係る支援を充実させるために」の部分を読んで、例えば地域の課題を社会教育で解決していこうというところが大きいなら、社会教育センターには地域に出ていく部署や職を設けて積極的にやっていく方がいいと思いました。</p> <p>○社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）これまで地域割りをして担当をつける形式での業務は行っておりません。むしろ、地域の中で相談先としての仲間をつくるを中心とする事業展開で、人ととの関係を中心とした機会をどうつくるかということに腐心してきたところがあります。</p> <p>次のステップとして、主催事業のつながりだけではなく、社会教育というキーワードで会える人たちとのつながりを別のチャンネルで多様につくれる可能性があると思います。今後は、社会教育センター事業の展開を絡めながら、地域単位で何かをするときの小さな関係づくりに力を入れ、それを網羅できるようになることが今後の課題と思っています。</p> <p>○議長 報告事項の2番目、今期の会議の予定についてお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事）（資料説明）</p> <p>○議長 報告事項の3番目、青少年問題協議会委員の推薦についてお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事）任期満了に伴い、新たに委員を推薦する必要がありますので、議長と相談させていただきます。</p> <p>○議長 協議事項に移り検討課題の設定ということで、前回の会議では区の社会教育について感じていることをざっくばらんに出していただきました。目的的ではない学びが大切、子どもや若者に必要とされている学びについて、学校施設が地域の社会教育の中心的な存在としてプレゼンスを発揮するにはどうしたらいいのか、生きづらさに何かケアできないか、他者との関わりから気づきのような学びについてといったお話をいただきました。</p> <p>これらも踏まえて、今期の社会教育委員会でこんなことを議論したらどうかということがありましたら、自由に出していただきたいと思います。</p> <p>○B委員 話が割と多岐に渡るので、どの時点かで絞るのか、絞る必要があるの</p> |   |

かなど、まだちょっと分からぬといふか…。

○議長 今日はフリーで、次回は今日の議論をふまえて少し収斂した議論にできればと思っています。

○B委員 いろいろなテーマがたくさん出てきて絞るようになるかもしれません  
が、多様なものをどう維持しまとめるかが、今の関心事になっています。

○議長 例えば、図書館はなぜ存在しているか。本を読んだり借りたりという場所ですが、実はあれは社会教育です。読書は個人学習ですが、図書館という場に身を置くことで自分なりの関心が芽生え、集まること自体に意味がある社会教育施設です

多面的な入口や問題意識は人が集まることによって可能になるのではないか  
と思います。自由に集まる場、刺激し合える場をどうつくっていくのかが大事  
だと思います。

○A委員 地域の課題の中で外国にルーツのある子どもの日本語の学習の問題が  
大きくなっています。別室で日本語を学ぶ取り出し授業はありますが、教員免  
許が必要なため、担当できる方が少なくなってしまいます。地域の人間が外国  
にルーツのある子どもに日本語を教えることは、多文化共生の地域づくりに役  
に立つところなので、社会教育の立場から地域で何ができるか考えていくと  
おもしろいと思います。

○C委員 社会の分断や情報の偏りから居心地のいい場所だけで完結して他を知  
らないという状況の中で、いろいろな物の見方や価値観に気付きを得られる  
のが社会教育だと思いますが、そうした場につながる発想すらるのが問題です  
し、働きかけが非常に難しいです。

せめて子どもたちには、いろいろな価値観があることを教えて、伝えて、感  
じていくことが私たちのやるべきことではないでしょうか？教えるというよりも  
見せていく、当たり前に考えて育っていくところに社会教育がうまくサポー  
トできるような仕組みをつくれると、いろいろな知見を持った人たちがそれを  
生かせるし、子どもたちにとっても生きやすい学びの場になっていくと感じた  
ので、うまく両方がリンクするといいと思いました。

○D委員 違う流れになりますが、区民意向調査では生涯学習についてどんな結  
果が出ているか、話の素材としてあるといいなと思いました。

○E委員 テーマを話し合いまとめて、どう活用されるのでしょうか？

○議長 社会教育行政はシステム化されていないため、環境整備や事業化といつ  
た方法で行われます。まとめを作った段階で、制度や事業という形で実現す  
る、自発的に活動するよう住民にもお願いするといったようになるのだと理解  
しています。

○E委員 人と関わることで生きづらさを感じる人へのケア・回復というのが課  
題だと思います。これまで関わった社会教育事業は福祉寄りだったので深掘り  
したいと思いました。人と関わるのが嫌な人たちに対して、どうやってケアと  
か回復の方法を伝えられるのか。講座に足を運ぶこともやらないと思います。

ただ、関わりたくないのが本心なのか、本当は関わりたいと思っているんだけ  
どその一歩が出ないのか、一緒くたにしないで考えた方がいいと思います。

○F委員 ボランティア活動で知り合った人が、自分の世界から出ない人を引き

込むのは大変だけれども、小学校や地域という小さなコミュニティで引き込めたらいいのではないかと話していました。社会教育センターや社会福祉協議会といったものが地域にたくさんあるといいと話されていて刺激になりました。

○G委員 高齢化社会で、今まででは関心がなかった大人も、何かとつながることで自分をさらに高める機会にアクセスすることができるようになると思います。杉並区はポテンシャルが高いので、いろいろな活動が「見える化」されていると、多くの人がもっと参加できるのかなと思いました。

○B委員 地域の人が何となく集まれる場をつくる中で思うのは、地元にすごく行く人と、地元じゃないところに行く人、ある程度の匿名制をもって関わった方が気楽だという人が、結構たくさんいて、うまい距離感みたいなことが分かっていないと、地域の中ならみんな仲よくなれるとか、あれができるよとか推しても全然反応しないと思います。関わり代をうまく設計しておかないと全く引っかからない。杉並区はポテンシャルがあるといいますけど、同じ人に同じようなものが届いているような気がします。

○G委員 そうそう。

○B委員 振舞い方を変えていかないと、はまらない気がします。難しい状況にあったとしても、関われるチャンスは少しずらしたところに入口を作っていた方がいいかなと思います。

○C委員 人と関わるのが嫌だと見えててしまうけれど、原因をつくったコミュニティでうまくいかなかっただけで、誰かとつながりたいという思いは感じていると思います。ただ、外に出ようするとトラウマみたいなものがフラッシュバックしてしまうことがあって、別のコミュニティなら関わり合えるよと安心感を与えて、場を上手につくっていくことが大事なのではないかと思います。

それから、0から1歳児のお母さんたちは遠くにいいものがあっても出かけられないで、いろいろな立場の人たちがそれぞれ自分の居場所を感じられるようなものを作っていくかなくてはいけないのかなと思いました。

○議長 学校教育だと半強制的な部分がありますが、社会教育は100%自発的じゃないやいけない。だから「このコミュニティがいいですよ、どうぞ」と言うのも余計なお世話で、自発的に面白そうだ、行ってみようという環境づくりをしないといけない。人も距離感もコミュニティもいろいろだから、社会参加して自分で見つけるように、つながってもらえるようにするというわけですが、実際に困っている、どうしたらいいのか分からない人もいるわけですから、その辺のフォローは自発的つながっていく環境がつくれないかと思っています。

○A委員 どこで生きづらさが生じるかといったら、主に職場と学校だと思います。そうでないサードプレイスが有効ということで、杉並区では、いろいろやつていただいていますが、その人のためにもなるし、地域のためにもなると思います。いろいろなノウハウを持った人が地域から出てきて、地域で何かやっていかないと地域が絶対うまくいかない。簡単には出でいけないし、すぐにいろいろな地域活動がうまくできるわけでもないけれど、そこをうまいことやっていくのが、職員の腕にかかっているところだと思います。職員の皆さんも地域にいる我々も正解や何でも絶対にできるノウハウを持っているわけではないので、いろいろやりながら、何とかやっていける仕組みをつくっていくことが

できるといいし、そのアドバイスを我々がやれると本当は一番いいのかなと思いました。

○D委員 次回以降、論点を集約していくときには、取っ掛かりとか抛り所とかがあるといいなと思いました。あとは、前半は子ども・若者の議論で、後半大人に戻ってきたように思いますが、論点と同じように軸足の置き方が必要になってくると思いました。少しモヤモヤしたことですが、以上になります。

○議長 個人的な感想ですが、社会教育は基本的に対等な関係性が基礎になるわけで、対等な関係の自由さが価値観の落差を生み出して、気づきにつながって面白いのだと思います。本来の社会教育はそうあるべきですが、地域に行くと、大人が若者を制約し、社会的な役割が固定化されて、役割をはみ出すと怒られるみたいなものやっぱりあるような気がします。

生きづらさというのは、社会全体目に見えない抑圧感が今の若い人にはあって、大人も今の時代についていけない感覚を持っていて、みんなが自由になれない状況があるという認識を私は持っています。そこを社会教育の力で何か突破できないかと思っています。

○E委員 自分は専門家の中にいる一般人のような気持ちでここにいます。子どものことがテーマに出ていますが、自分が親になって思うことは、親が目的的ではない学びの大切さを知っておくと、子どもに何か聞かれたときに、なぜそれが大事なのか言えると思います。親が「今日こんなことを勉強してきたよ」と子どもに日常的に言えると家庭教育の面でも効果があると思いました。

○C委員 パパ向け講座も開催しているのですが、やはり意識の高い人しか出でこられないで差が開いていきます。学校教育に社会教育的な知見を持った方が入っていけば、未来が明るい気持ちでいます。子どもの成長は待ってくれないという気がして、親の違いで差をつけられないようにと思っています。

○E委員 経験談で申し訳ないのですが、公園で娘を遊ばせていたとき、子ども同士で遊ばせてあげたいと、お母さんグループから食事会に誘われたのですが、何となく断ってしまいました。子どもの話題で話せるし、行ってもよかつたのに、良くない何かが働いたのでしょうか。おやじの会やお母さんの会、どうやつたら交じれるのか？無意識の何かが働いるのかな…

○B委員 それ、奥さんに話しましたか？その部分を拾わないのが一番大きな問題なのですよ。人と関わると、小さい違和感を必ずどこかで抱えていて、これを言う相手がいないのですよね。「なぜそう思ったの？」と聞く人もいないので事実を拾うタイミングがないのです。ちゃんと拾わないと、その違和感は置き去りで、どこかで噴き出すみたいな感じになってしまいます。

○C委員 子どもたちへの言葉かけも全くそうです。「どうして？」はNGワードで事実を聞いていく。理由を内省していくことができるから、それは大人も同じです。一つ一つがつながって社会教育になっていくと思います。

○D委員 本当におっしゃるとおりだと思いました。サークルやグループもちょっとした違和感とか息があってないかもと思うことをそのまま放つておくと、次はない。それをどう拾うかは、すごく大事なお話だと思いました。

○議長 子どもとか、第三者がいるから気付きにつながっていいのではないかと思って話を聞いていました。ありがとうございます。

- A委員 現場で担当されている社会教育センターの職員の方にいろいろ発表していただけだと、我々も意見を言うのに刺激になるのではないかと思いました。
- 社会教育センター所長 ご要望にしっかりとお答えできるかどうかは分かりませんが、お話することはできるのではないかと思っております。
- 議長 特に大人塾のこれまでの成果と課題を聞ければと思います。次回は議論の一定の方向づけをしていきたいと思っています。
- それでは、最初に部長からご提案があった、社会教育委員の会議に愛称みたいなものにつけるというのは皆さん、どういうふうに受け止められましたか？
- E委員 イエスです。
- B委員 私は、場づくりやまちづくりは芸事だと思っているので、吉本興業みたいな名前がつくと面白いのではないかと思います。
- A委員 面白い名前をつけてキャラクターもつくって派手にやったほうがいいのではないかでしょうか？
- 議長 社会教育委員の会議と生涯学習審議会を全部合体して、多摩市は「学びあい育ちあい推進審議会」をつくっています。
- G委員 入口のフレンドリーさという意味で、お堅い社会教育委員会よりは何か親しみやすい名前にするのは賛成です。
- D委員 「社会教育」という言葉を使わない愛称が一つと逆に、あえて「社会教育をみんなで考えましょう」みたいな、社会教育を前に出すキャッチフレーズがいいのか、そういうのも考えていいのかもと思いました。
- F委員 私も賛成です。どんなことをやっているのか分かるようなものに決まるといいと思います。
- 議長 社会教育推進担当係長はどう思いますか？
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 条例で設置する附属機関ですので、正式名称は決まっています。私は社会教育という言葉を大事にしたいという思いがありますが、広めていくためには柔軟に考えることも大切だと感じています。愛称なのかキャッチフレーズなのかなど整理は必要だと考えています。
- 議長 生涯学習の時代に、社会教育は学習ではないのというのが一般的な理解ですが、学習というのは、自発性、ボランタリズムがなきやいけないわけで、社会教育というと何か堅い、社会教育センターは行きづらいというのももったいないので区民の社会参加のハードルを下げる愛称もいいのかなと思います。
- B委員 「何かすてきなサムシング」とか、そんなのでいい気がします。「目的的でもないサムシングはありますよ」というぐらいがいい気がします。
- 生涯学習担当部長 今のB委員の意見がいいと思います。条例上決まっている名称なので「社会教育委員の会議」は外せないですが、楽しそう、面白そうというのが伝わらないと、いいことをやっていてもそう聞こえないので、考えてもらえたらしいのではないかなと思います。
- 議長 最後に、今の件も含めて、課長からご挨拶を頂きたいと思います。
- 生涯学習推進課長 人と人をつなげるのが社会教育の意義だと思います。行政も区民とつながって生の声を行政の中に生かしていく必要があるので、こうした議論の中に重要な目線があると改めて感じています。

社会教育という名称を使わないで社会教育を考えることは、本来社会教育が目指すものは何かを考える契機にもなると思います。杉並の社会教育が深まっていくと思っています。今日はありがとうございました。

○議長 ありがとうございました。これで終了いたします。